

二九精密機械工業

極細管流体研磨で新技術

異径パイプ、内面均質化

二九精密機械工業（本社＝京都市南区、二九良三社長）はこのほど、極細管の流体研磨技術を新たに開発した。液体研磨剤をパイプ内に流して内面研磨する装置を自社考案。角度がついた異径パイプの内面均質性の向上を図り、β（ベータ）チタンを主とする極細管のニーズ対応幅を広げる狙いだ。

二次加工品の品質向上

同社はステンレス、チタン、特殊金属などの機器用精密部品の機械加工を行う一方で、2012年からチタン・バナジウム・アルミ系合金のβチタン極細管の内製を開始。輸入販売元を務めるニッケ

ルチタン合金極細管「ニチノール」などステンレス素材を含めて、高弾性の極細管の加工を行っている。流体研磨装置は研磨

剤の液体タンクと攪拌機、ポンプによって構成されており、このほ

どβチタン極細管の製造拠点である京都工場（京都市南区吉祥院内

河原町20-1）に設置。装置は6台あり、すでに稼働を始めている。絞り加工によって内径が変化している異径パイプなどは、これまで

工機を新規導入。今年もファイバーレーザー加工機の追加や非接触型レーザー顕微鏡を導入

入するなど、加工と品質保証体制の充実を図っている。